

令和6年度

博物館だより

令和5(2023)年度の活動

令和6(2024).7

第29号

新潟市北区郷土博物館

〒950-3322

新潟市北区嘉山3452

TEL 025-386-1081

FAX 025-388-6290

museum.n@city.niigata.lg.jp



夏休み子ども鑑賞会

「アートにふれよう! びじゅつとともにだち」

長く続いたコロナ禍は、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことでようやく収束し、人の動きも戻りつつあります。このコロナ禍はリモートワークをはじめ、インターネットを利用して居ながらにして様々なことを行う経験となって、人々の暮らしに様々な影響を及ぼしました。

博物館において、博物館法の改正もあって資料のデジタル・アーカイブ化は大きな課題となっています。デジタル・アーカイブ化は資料に係る情報の保存と体系化、情報の共有化などの観点から重要性が高まり、インターネット等を通じて資料を公開していくことの有効性が認められています。ICT技術の発展によりリアル感を伴ったインターネット上での博物館の展示が今後進み、更に利便性が高まっていくと期待されます。

他方で博物館に足をお運びいただき、作品や資料に近い距離で直接対峙することで、来館者が得られる体感や感動、学芸員と直接会話することで得られる知識や体験は、インターネット上の展示では得難い貴重な経験となるとも考えます。

今後、中・長期的にデジタル化への対応と博物館における展示の更なる充実をともに進めて行く必要がありますが、まずは身近な一人ひとりの来館者への心を尽くした対応を大切にして、事業を進めたいと考えています。

館長 伊藤 健

令和6(2024)年度の事業計画

展 示

◆常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」

(考古・歴史・民俗・芸術(書))

◆企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画 葛塚縞展

会期：R6.1/4(木)～5/6(月・休)

かつて町の主要産業だった木綿織物「葛塚縞」について関連資料を展示。

【講演会】「越後の木綿」4/29(月・祝) 講師：陳 玲氏

【展示解説会】4/7(日)、4/21(日)

【手織り体験・実演】4/6・13・20・27 5/4 各(土)

② 新潟地震から60年 災害の記録をたどる写真展

会期：5/25(土)～6/30(日)

1964年に発生した新潟地震、1966年と1967年の大水害など、これまでにみまわれた災害を記録写真などで紹介。

③ 夏休み企画 書を読むー弦巻松蔭と上田桑鳩の作品ー

会期：7/13(土)～8/25(日)

2人の作家の自由な表現を楽しみつつ、書芸術の魅力を探る。対話形式による作品鑑賞会を実施予定。

【作品鑑賞会】8/4(日)、8/11(日) (講師 神田直子氏)

④ 第2回 新潟市北区こども作品展

会期：9/21(土)～10/20(日)

新潟市北区の小学生が夏休みに取り組んだ創意と工夫に富んだ自由研究や作品を展示。会期中の土・日・祝日にボランティアの常設展示解説及び親子で楽しめる企画を実施予定。

【ボランティア企画】10/14(月・祝)

⑤ 所蔵美術作品展 かたちを「うつす」世界

会期：11/16(土)～R7.1/13(月・祝)

「うつす」という言葉から導かれた3つの「写す/移す/映す」をキーワードに新収蔵作品を含めた美術作品を公開。

【作品鑑賞会】(講師 神田直子氏)

⑥ 北区ゆかりの文化財展(仮称)

会期：R7.2/8(土)～5/6(火・休)

北区ゆかりの指定文化財や登録文化財など有形・無形の文化財を紹介。

【展示解説会】(講師 当館学芸員)

教育普及

◆博物館講座(各14:00～15:30)

① 「地名・町名から読む郷土のあゆみ」

6/9(日) 講師：本井晴信氏(元新潟県立文書館副館長)

② 「新潟地震から60年 いま災害を考える」

6/16(日) 講師：伊藤 健(当館館長)

③ 「じっくり見たい北区の碑(いしぶみ)」

6/23(日) 講師：本井晴信氏(元新潟県立文書館副館長)

④ 「アートを楽しむー弦巻松蔭と上田桑鳩の書作品を中心に」

6/23(日) 講師：神田直子氏(元当館学芸員)

◆夏休み体験教室

① 手織り体験

7/27(土)、8/17(土)

講師：葛塚縞手織りの会

② フラ細工体験

7/28(日)、8/18(日)

講師：当館市民ボランティア、当館職員

◆ふるさと学習

学校や地域と連携した資料紹介や展示見学に対応。電化製品が普及する以前の暮らしを館蔵の生活道具を利用し、新潟市北区の小学校3・4年生の社会科授業等に対応。

◆博物館実習、職場体験等の受け入れ

・博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ

・県内外の大学生6名を2グループに分けて受入予定

期間：7/27～11/24 各グループ7日間の実習

・中学生の職場体験の受け入れ

葛塚中学校2年生4名 期間：5/16～17

◆レファレンス

・市民の郷土史学習サポート、資料調査協力、関連図書閲覧対応

・他の博物館や大学など研究機関への協力

市民ボランティア

◆常設展示ガイド 団体見学等における常設展示案内

◆体験教室指導 フラ細工体験指導、ボランティア企画実施

◆定例会・研修会 情報交換やスキルアップを図る

収集・保存・調査研究

◆所蔵資料(指定文化財含む)の保管・整理

・歴史、民俗、美術資料の整理作業 ・くん蒸処理

◆郷土資料収蔵庫管理

・環境整備 ・虫の侵入防止 ・空調管理 ・くん蒸処理

◆寄贈資料の受け入れ

◆刊行物等制作

文化財関連

◆調査整理

◆公開活用

・新潟市北区郷土芸能公演(仮称)

11/3(日・祝) 会場：葛塚東小学校体育館

・北区郷土芸能の祭典(仮称)

11/24(日) 会場：北区文化会館

・文化財等説明板の修繕

◆保護育成

県指定天然記念物、市指定天然記念物などに関する対応

特色ある区づくり事業「北区郷土博物館 地域魅力発信事業」

令和5～7年度で①常設展示スペース整備充実②葛塚縞手織り実演③郷土芸能の実演④常設展示案内の追補版の発刊を行う。6年度は②③を実施。

- ・葛塚縞手織り実演会（葛塚縞手織りの会による出張実演）
8/31(土)、9/1(日) 会場：新潟ふるさと村
- ・北区郷土芸能の祭典（仮称）（再掲）
11/24(日) 会場：北区文化会館

新潟市北区特色ある区づくり事業「北区郷土博物館 地域魅力発信事業」
令和6年度の取組み

北区が取り組む「特色ある区づくり事業」の一環として、当館では令和5～7年度に「北区郷土博物館 地域魅力発信事業」を掲げて取り組んでいます。令和4年度に分館「横井の丘ふるさと資料館」の解体に伴い、ここで展示していた資料を活用し、新たに『葛塚縞』の常設展示コーナーを設けました。さらに国内でも稀有の貴重な活動をされている葛塚縞手織りの会の皆様にご協力いただき、定期的の実演、手織り体験も行ってまいりました。

今年度はさらに北区の歴史・文化を広める活動として、館外にて葛塚縞手織り実演を行い、また郷土芸能の祭典（仮称）を6年ぶりに北区文化会館において行います。北区の魅力を発信するとともに、多くの皆様の興味関心こそが、後継者不足が懸念されるこれら無形民俗文化財の継承につながるものとなるでしょう。

葛塚縞手織り実演

8月31日(土)・9月1日(日)：会場 ふるさと村



※写真は北区郷土博物館での実演風景

北区郷土芸能の祭典（仮称）

11月24日(日)：会場 北区文化会館



※写真は平成30年開催の「伝統芸能文化の祭典」の様子

展示

◇常設展示

① 常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」

(考古・歴史・民俗・芸術(書))

●入館者数 7,321人

◇企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画

昭和の暮らし展—着るたのしみ、装うたしなみ—

会期：1/4(水)～5/7(日)

「昭和の暮らし」シリーズの第7回目。昭和30～40年代の衣服(洋服)にまつわる道具と資料により、日本の高度経済成長とともに豊かになりつつあった当時の服飾文化を紹介。

[展示点数] 33点(民俗資料、写真、書籍等)

●入館者数 1,986人(4/1～5/7は 582人)

●展示解説会 4/23(日) 神田直子 参加者8人

5/7(日) 神田直子 参加者7人

●関連ワークショップ「毛糸であそぼう」

4/29(土・祝) 遠山裕菜 参加者3人

② ミニ企画展 新潟地震—北区の記録—

会期：5/26(金)～7/12(水)

昭和39(1964)年6月16日の新潟地震における現北区域での被害写真17点を展示し、北区域での被害を紹介するとともに、新潟地震～私の記憶～掲示板を設置し、新潟地震時の北区域における新たな情報を求めた。

[展示点数] 17点(写真)(内6点は個人提供)

●入館者数 738人

③ 所蔵作品公開企画 美術のなかの自然展2

会期：7/22(土)～8/27(日)

「自然とはなにか」という問いを手がかりに、地域の人々の生と自然の関わりを提示する常設展示と関連づけた美術企画展。現実の世界と表現された世界の違いに着目し、当館所蔵の絵画と立体作品により、作家独自の世界観と、作品として「表現された自然」について思い巡らす企画。

[展示点数] 22点(絵画・彫刻・書)

●入館者数 797人

●解説リーフレット A4判 全4頁

●作品鑑賞会 7/23(日) 神田直子 参加者19人

8/20(日) 遠山裕菜 参加者19人



「アートにふれよう! びじゅつとともに」

●アートにふれよう! びじゅつとともに(小学生対象鑑賞会)

8/4(金) 遠山裕菜 参加者3人

8/9(水) 遠山裕菜 参加者2人

*8/18(金) 遠山裕菜 参加者28人

(*葛塚東ひまわりクラブの特別団体観覧)

④ 第1回 新潟市北区こども作品展

会期：9/16(土)～10/9(月・祝)

新潟市北区の小学生が夏休みに取り組んだ作品や自由研究を募集し、出品全作品を展示、最優秀賞3人・優秀賞3人を選出し表彰式を実施。令和3年度まで開催した「新潟市北区こども科学展」の内容を見直し、対象を小学生のみとし、理科や図工の分野に限らず広く作品・研究を募集する展覧会に変更し改称したものの。

[主催] 新潟市北区 [対象] 新潟市北区内の小学生

[審査員] 小林淳英(豊栄南小学校長)

小島寛幸(北区教育支援センター 指導主事)

丸山寛(北区長)

伊藤健(北区郷土博物館長)



新潟市北区こども作品展展示風景

●入館者数 656人

●参加校 北区内小学校7校

●出品者数・出品点数 36人・36点

《内訳：1・2年生の部 17人・17点/3・4年生の部

13人・13点/5・6年生の部 6人・6点》

⑤ 美術企画展 没後1年 西村満展—北のまなざし—

会期：11/18(土)～12/17(日)

新潟市松浜(現新潟市北区松浜)の風景を原点として、自身の内景と共鳴する世界を描き続けた西村満(1935—2022、現十日町市生まれ)の没後1年にあたり、その代表的作品21点に加え、資料としてスケッチ作品を展示し、西村の「北のまなざし」を浮き彫りにした。

[展示点数] 28点(油彩画21点、関連スケッチ7点)

[後援] 新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送

[協力] 新発田市教育委員会

●入館者数 1,554人

●解説リーフレット A4判 全8頁



西村満展作品展覧会

●作品鑑賞会

- 11/19(日) 対話による鑑賞会 遠山裕菜 参加者21人
- 11/25(土) 中高生向け鑑賞会 遠山裕菜 参加者6人
- 11/26(日) 作品鑑賞会 神田直子 参加者16人
- 12/2(土) 中高生向け鑑賞会 遠山裕菜 参加者7人
- 12/3(日) 対話による鑑賞会 遠山裕菜 参加者17人
- 12/10(日) 作品鑑賞会 神田直子 参加者8人

⑥ 常設展拡大企画 葛塚縞展

会期：R6.1/4(木)～5/6(月・休)

葛塚縞は葛塚の地名が付いた木綿織物で、低湿田での厳しい農作業に適した野良着用の木綿布として評判だった。江戸時代後期から産業化し、近代は町の主要産業として発展、昭和40年代後半まで工場生産された。葛塚縞の歴史と産業としての葛塚縞について紹介。令和5年1月4日新設の常設展示「暮らしを支えた手織り 葛塚縞」コーナーの関連企画。

[展示点数] 41点(文書、民俗資料、写真)

●入館者数2,444人(1/4～3/31は1,536人)



葛塚縞展トークイベント

- トークイベント「葛塚縞の魅力、再発信」3/10(日)
話し手：里村洋子氏(エッセイスト・ノンフィクション作家)
聞き手：曾部珠世 参加者28人
- 葛塚縞手織りの会による手織り伝承活動の公開
会期中の毎週土曜日午後
- 手織り体験 講師：葛塚縞手織りの会
3/23(土) 参加者3人・30(土) 参加者3人
(次年度開催予定4/6・13・20・27、5/4)
- 展示解説会 3/24(日) 曾部珠世 参加者3人
(次年度開催予定 4/7・21)
- 講演会「越後の木綿」(次年度開催予定)
講師：陳玲氏(県立歴史博物館 専門研究員)

教育普及

◇講座

歴史講座「じっくり見たい北区の碑(いしづみ)」1・2

講師：本井晴信氏(元新潟県立文書館副館長)

6/4(日) 参加者28人・11(日) 参加者26人

◇夏休み体験教室

① 手織り体験 講師：葛塚縞手織りの会

7/30(日) 参加者8人・8/6(日) 参加者2人

② フラでなべしき作り体験

講師：早川ミハル氏、成澤清子氏(26日のみ)、曾部珠世

8/20(日) 参加者19人・26(土) 参加者11人



フラでなべしき作り体験

③ 北区郷土博物館市民ボランティア主催

ワークショップ「透ける紙で窓飾りづくり」

様々な色の透ける紙で作る簡単な折紙の窓飾り作り

講師：北区郷土博物館市民ボランティア

8/6(日) 参加者 5人

◇第30回郷土芸能発表会

コロナ禍により前回の令和元(2019)年以来4年ぶりに実施

【演目(出演団体)】 計 9団体(出演順)

松浜太鼓(松浜太鼓保存会) / 木崎の神楽(木崎三柱会) /

新崎樽ばやし(新崎樽ばやし連) / 正尺の神楽(正尺神楽保存会) /

新崎甚句(新崎甚句保存会) / 長場の神楽(長場神楽保存会) /

内島見の神楽(内島見神楽保存会) / 新崎伊佐弥神楽(新崎伊

佐弥神楽保存会) / 松浜盆踊り(松浜盆踊り太鼓保存会)

11/3(金・祝)(展示ホール)

●入場者数 320人

●関連企画 北区の神楽・獅子舞を写真パネルで紹介



第30回郷土芸能発表会

◇ふるさと学習

学校や地域等と連携し、資料紹介や展示見学対応を行った。

① むかしの道具コーナーの設置

R6.1/4(木)～2/29(木) (集会室)

釜、洗濯板など電化製品が普及する以前の生活道具を展示。新潟市内の小学校3年生の社会科等の授業での活用のサポートのほか、一般見学にも対応。野良着着用・天秤棒担ぎの体験コーナーを設けた。

② 学校団体学習利用

新潟市立濁川小学校3年生 社会科「かわる道具とくらし」

昔の米作りから見る地球にやさしい昔のくらし、福島潟周辺の昔のくらしの説明、野良着体験

9/20(水) 2クラス (58人)

対応：曾部珠世、遠山裕菜、市民ボランティア6人

新潟市立早通南小学校4年生 社会科「福島潟の干拓」

「福島潟の干拓」に関する民俗資料の見学、干拓の歴史・水害等の説明

11/16(木) 3クラス (100人)

対応：曾部珠世、市民ボランティア2人

新潟市立葛塚東小学校4年生 社会科「福島潟の干拓」

「福島潟の干拓」に関する民俗資料の見学、干拓の歴史の説明

12/5(火)・6(水)・12(火) 4クラス(117人)

対応：曾部珠世、市民ボランティア延べ2人

新潟市立木崎小学校3年生 社会科「かわる道具とくらし」

野良着・天秤棒体験、むかしの道具コーナー説明と昔の米作りから見る地球にやさしい昔のくらしの説明

R6.1/18(木) 2クラス (58人)

対応：曾部珠世、遠山裕菜、市民ボランティア3人

新潟市立葛塚東小学校3年生 社会科「かわる道具とくらし」

野良着・天秤棒体験、むかしの道具コーナー説明と昔の米作りから見る地球にやさしい昔のくらしの説明

R6.1/30(火)・31(水) 4クラス(102人)

対応：曾部珠世、遠山裕菜、市民ボランティア延べ7人



むかしの道具コーナーでの学習の様子

③ 一般団体対応

下山郷土史研究会

常設展示見学 (北区について学ぶ)

6/14(水) 10人 対応：曾部珠世

北区自治協議会自然文化部会

常設展示の見学 (北区について学ぶ)

9/26(火) 4人 対応：伊藤健館長、曾部珠世

◇講師派遣

ご近所だんぎ「新潟地震～《見て》北区の記録

《聞かせて》あなたの体験～」

主催・会場 新潟市豊栄地区公民館

6/8(木) 参加者34人 講師：曾部珠世

とよさか中高年教養大学 一般教養講座

「現代美術への招待(5)」

主催 とよさか中高年教養大学

会場 新潟市葛塚コミュニティセンター

12/9(土) 参加者30人 講師：神田直子

新潟市立早通南小学校3年生社会科出前授業

「かわる道具とくらし」(民具説明/野良着体験)

主催・会場 早通南小学校

R6.1/16(火) 参加者3クラス(98人)

講師：伊藤健館長、曾部珠世

とよさか中高年教養大学

一般教養講座「美術の物語(3)」

主催 とよさか中高年教養大学

会場 葛塚コミュニティセンター

R6.1/13(土) 参加者30人 講師：神田直子

◇他館等主催事業への協力

ビュー福島潟名誉館長イベント

「福島潟ウォッチング～遠藤麻理さんと自然観察、そして妖怪仲間とワイワイおしゃべり～」

主催・会場 水の駅「ビュー福島潟」

10/22(日) 参加者数45人 講師：曾部珠世

地域が主役里潟保全事業への協力

「福島潟ガイドブック」の原稿執筆

『福島潟ガイドブック』(B5判36頁、R6.3月末発行)の「福島潟干拓の歴史」(3頁分)、「民俗・生業」(4頁分)の原稿執筆、校正執筆担当者会議出席

主催 新潟市環境政策課 12月～R6.3月 担当：曾部珠世

◇博物館実習、職場体験

博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ

8/29(火)～9/15(金)のうち7日間

実習生 1人(山形県立米沢女子短期大学2年生)

◇レファレンス

市民の郷土史学習サポート、資料調査協力、
歴史資料や郷土史関連図書の閲覧対応
他の博物館や大学等研究機関への調査協力

市民ボランティア

平成28年度から活動してきた「新潟市北区郷土博物館市民ガイド」の活動範囲を拡大。名称を「新潟市北区郷土博物館市民ボランティア」と改め、新規メンバーの募集も行った。スキルアップ研修、情報共有・交換、体験サポート、学校対応等を行った。

① メンバー募集と養成

●募集 4/18(火)～5/9(火) 応募者 9人

●ガイダンス講座

講師：なくも友美氏(にいがた観光カリスマ)

5/27(土) 参加者 16人

② 市民ボランティアの活動

●一般団体ガイド

常設展示案内を主として、2人1組で団体見学者のガイドを行った。

4/22(土)・5/26(金)・9/21(木)・11/1(水)・3/27(水)

5回 見学者112人 市民ガイド延べ23人

●ボランティアガイドウィーク

ゴールデンウィーク期間に一般の見学者に対する常設展示の案内を行った。

4/29(土・祝)・30(日)・5/3(水・祝)～7(日)

見学者86人 市民ボランティア延べ16人



団体をガイドする市民ボランティア

●市民ボランティア主催ワークショップ

「透ける紙で窓飾りづくり」(再掲)

8/6(日) 参加者5人 講師：市民ボランティア7人

「いろんな紙飛行機をつくろう」

12/23(土)午前・午後 参加者0人

講師：市民ボランティア9人

●北区こども作品展期間の常設展示ボランティアガイド

9/16(土)～10/9(月・祝)の土・日・祝日

見学者117人 市民ボランティア延べ21人

●学校団体学習利用サポート(再掲)

5校 15クラス(435人) 市民ボランティア延べ20人

●定例会・研修会

常設展示の解説時のスキルアップやボランティア活動に関わる情報収集のための定例会と研修を行った。

定例会 4～R6.3月隔月第2土曜日(7月以降毎月)9回

研修会 7月～R6.3月 7回

講師：なくも友美氏(2/18)、当館学芸員

参加者延べ99人

●館外見学

ボランティア活動の向上のため、他館を見学した。

見学先 新潟県立歴史博物館、馬高縄文館、新潟県立近代美術館

11/23(木) 参加者9人

●郷土資料収蔵庫見学(所蔵民俗資料の見学)

11/25(土) 参加者10人



小学生の昔の道具体験をサポートする市民ボランティア

葛塚縞手織りの会(手織り機技術伝承)

常設展示中の葛塚縞コーナーで、「葛塚縞手織りの会」が手織り機の技術伝承活動を行った。原則毎月第2・第4土曜の午後1時30分～4時が活動日だが、葛塚縞展の会期中は毎週土曜に活動した。

活動日数50日 参加会員 延べ209人

内容 機織り・準備(糸巻き、整経、オサ通し、フェ通し等)

企画展関連手織り体験準備



葛塚縞手織りの会作業風景

収集・保管・調査研究

◇郷土資料収蔵庫管理

- ・環境整備 ・虫の侵入防止 ・空調管理
- ・郷土資料収蔵庫内の防虫防菌処理(12/1)

◇所蔵資料の保管・整理・調査研究

① 歴史資料の整理

- ・令和4年度購入の眞嶋家旧蔵文書の仕分けと中性紙保存箱への詰め替え作業
本井晴信氏(依頼) 作業日数:1.5日
- ・眞嶋家旧蔵文書の資料清掃ボランティア
河合清氏、里村洋子氏、早川ミハル氏、堀川浩氏、
広瀬秀氏(依頼) 作業日:14日

② 民俗資料の整理

郷土資料収蔵庫の配架作業

③ 美術・書資料に関する調査研究等

- ・弦巻松蔭旧蔵の法帖類の点検と整理作業
伊豆名皓美氏(依頼)との共同作業 作業日数:1日
- ・美術作品寄附受け入れにかかる事前調査と保管に関する業務
調査対象:高橋清「起原No.3」彫刻作品
内容:作品法量・重量等調査、設置方法、保管方法、磨き等
- ・美術・書作品及び資料の台帳との照合・整理作業

◇所蔵資料の貸出・写真等の使用許可 ※個人への貸出等は除く

使用期間・貸出先・目的	資料名	使用期間・貸出先・目的	資料名
4/1~R6.3/31 (H23.4/1以降貸出継続) 新潟市文化財センター 常設展示	森下古銭出土地 古瀬戸[瓶子]/ 森下古銭出土地 銭貨94枚/ 伝佐渡沖海底 珠洲焼[壺](畠山佑ニコレクション)/ 華報寺墓跡 珠洲焼[壺](畠山佑ニコレクション)	10/1 新潟市歴史博物館 講座	民俗資料の写真1点/ 昭和30~40年代の福島潟での漁業・狩猟・植物採集の写真9点/ 福島潟のゴミカキ作業(再現)の写真1点 計11点
4/1~R6.3/31 (R3.4/1以降貸出継続) 水の駅「ビュー福島潟」 常設展示	オオヒシクイ剥製 (アクリルケース入り)	10/4~R6.10/1 新潟県立歴史博物館 常設展示「山口賢俊撮影写真に見る湿田での稲刈りと稲運び」	昭和30年代の湿田の稲刈りと稲運びの写真11点(山口賢俊撮影)
4/1~R6.3/31 (H29.5/31以降貸出継続) 北区地域総務課 北区内自主防災組織等の防災学習	DVD「昭和41年7・17水害、昭和42年8・28水害、豊栄町の記録」	R6.1/13~2/25 新潟県立歴史博物館 「越後の木綿 いま むかし」展出品	『葛塚縞I 手織りの工程』に掲載等の写真10点 山口賢俊撮影の手織り8ミリ映像2点
5/21 福井県里山里海湖研究所 講演会(福井県立若狭歴史博物館)	映像「福島潟のゴミカキ作業(H10年再現)」	12/6 新潟市歴史博物館 豊栄南小学校出前講座	曾我簡堂関係所蔵資料の写真4点
7/17~R6.3/15 新潟県立歴史博物館 県博所蔵「新潟県民俗学会旧蔵民具コレクション」関連調査	山口賢俊 資料ノート(県内民俗調査の聞き取り等の記録)97冊	R6.2/17~3/24 新潟市歴史博物館 「1964-歓喜・悲嘆・奮励の366日-」展出品	「新潟地震 豊栄町の記録 写真集No.2」(豊栄市役所文書3517) 上記資料中の写真画像5点
9/16~12/3 新潟市歴史博物館 「むかしの暮らし展 どうぐのどうぶつえん!」出品	民俗資料4点(カスミ網、カブセ網、ツヅ、カンテラ)	12/12 ミネルヴァ書房 『入門 食と農の人文学』(2024年春刊行予定)掲載	高橋熙家文書(高橋仁七種苗店関係)の資料等の写真5点
9/16~12/3 新潟市歴史博物館 「むかしの暮らし展 どうぐのどうぶつえん!」出品	昭和30~40年代の福島潟での漁業・狩猟、葛塚市などの写真14点	R6.1/13~2/25 新潟県立歴史博物館 「越後の木綿 いま むかし」展出品	葛塚縞の反物2点
8/27 新潟市歴史博物館 講座	民俗資料の写真4点/ 昭和30~40年代の福島潟での漁業・植物採集の写真3点/ 福島潟のゴミカキ作業(再現)の写真1点 計8点	R6.1 (公財)新潟観光コンベンション協会 「令和5年度インバウンド観光消費額向上モデル事業」説明資料	昭和30~40年代の福島潟の漁業・狩猟・採集等の写真8点
10/21~R6.1/31 新潟市江南区郷土資料館 写真展「地図にない湖~亀田郷の風景~」出品	現新潟市域の昭和30年代米作り、水田風景などの写真6点(山口賢俊撮影)	R6.3/16~R7.3/26 新潟県立歴史博物館 県博所蔵「新潟県民俗学会旧蔵民具コレクション」関連調査及び展示	山口賢俊 資料ノート(県内民俗調査の聞き取り等の記録)97冊

文化財関連

① 調査整理

眞嶋家旧蔵文書(令和4年度購入)の資料清掃ボランティア
作業日(各日とも半日):10/13・17・20、11/22・24・30、
12/7・13、1/12・18・25、2/1・8・15
作業人数:延べ29人

② 公開活用

- 指定文化財の常設展示室での公開
- 北区内郷土芸能保存団体代表者会議の開催 7/12(水)
(各団体の活動状況の聞き取り、令和5年度事業・6年度予定事業についての連絡など)
- 第30回郷土芸能発表会(再掲) 11/3(金・祝)
- 文化財等説明板の修繕:3件(大久保正太郎君頌徳碑、古峯神社、歓天喜地)
- 各種イベントへの市指定無形民俗文化財の神楽舞の公開(披露)について調整
10/22(日)キテミテキタ区 野外文化祭ステージへ高森の神楽出演



キテミテキタ区出演の高森の神楽

11/5(日)LAGUNA SQUARE(旧中常楼)オープニングイベントへ他門の神楽出演



LAGUNA SQUAREオープニングイベント出演の他門の神楽

③ 保護育成

- 市指定天然記念物「大久保のケヤキ」、枯れ枝等の剪定(5/17~18)に関する対応 4~6月
(自治会・歴史文化課との連絡、文化財現状変更申請関係対応)
- 県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」、日本樹木医会新潟県支部の現地研修会(6/10、現況調査、形状寸法計測、枯れ枝除去作業等)に関する対応 4~6月
(自治会・歴史文化課との連絡、樹木医へ過去の樹勢回復事業について資料提供)
- 県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」、太枝折れのき損に関する対応 6月
- 郷土資料収蔵庫内の防虫防菌処理(再掲)
- 博物館(本館)収蔵庫内の防虫防菌処理(R6.3/4)
- 県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」に関する対応(大雪または能登半島地震が原因と推測される枝折れ等のき損 1月)
- 市指定有形文化財「法淳寺」に関する対応(能登半島地震が原因の漆喰・土壁の落下、骨組の竹(小舞)の破損 1月)
- 文化財防火デーにかかる石動神社(国登録文化財)消防訓練の立ち合い(1/24)



高森の大ケヤキ

特色ある区づくり事業
「北区郷土博物館 地域魅力発信事業」

事業名：北区郷土博物館 地域魅力発信事業

事業期間：令和5年4月1日～令和8年3月31日

目的：○葛塚縞の歴史と今日の状況などについて、広く市民に認知してもらう。
○地域の郷土芸能について、市民の理解を深める。
○郷土芸能を担う市民が誇りに感じ、後継者が集う環境を醸成する。
○貴重な文化財である郷土芸能の保存、継承を進めて後世に繋げる。
○区内の郷土芸能の交流により区の一体感を高める。

手段：

1 葛塚縞について

- ① 常設展示拡張コーナーの整備・充実、
- ② 葛塚縞手織りの出張実演、
- ③ 葛塚縞関連講演会の開催、
- ④ 市民理解を深めるための方策検討、
- ⑤ 常設展示案内追補版の発刊

2 郷土芸能について

- ① 郷土芸能の実演

令和5年度（1年目）

【常設展示拡張コーナーの整備・充実】

旧分館「横井の丘ふるさと資料館」の民俗資料を常設展示拡張コーナーに展示した。さらに照明の増設や展示台の製作を行うなど展示機能の整備を図った。



令和5（2023）年度 入館状況

10/23～27は照明工事のため、12/28～1/3は年末年始のため休館。
入館者数には館外事業での参加者数は含まない。館外事業の参加者数は欄外参照。

月別	入館者数(人)	主な行事
R5. 4月	479	昭和のくらし展 - 着るたのしみ、装うたしなみ - 1/4～5/7
5月	377	昭和のくらし展 - 着るたのしみ、装うたしなみ - 1/4～5/7 (計1986人 ※4/1～5/8は582人) ミニ企画展「新潟地震 - 北区の記録 -」5/26～7/12
6月	388	ミニ企画展「新潟地震 - 北区の記録 -」5/26～7/12
7月	569	ミニ企画展「新潟地震 - 北区の記録 -」5/26～7/12 (計738人) 美術の中の自然展Ⅱ7/22～8/27
8月	606	美術の中の自然展Ⅱ7/22～8/27 (計797人)
9月	643	第一回新潟市北区こども作品展 9/16～10/9
10月	384	第一回新潟市北区こども作品展 9/16～10/9 (計656人)
11月	1,309	没後1年 西村満展 - 北のまなざし - 11/18～12/17
12月	1,030	没後1年 西村満展 - 北のまなざし - 11/18～12/17 (計1,554人)
R6. 1月	544	常設展拡大企画 葛塚縞展 1/4～5/6
2月	482	常設展拡大企画 葛塚縞展 1/4～5/6
3月	510	常設展拡大企画 葛塚縞展 1/4～5/6 (1/4～3/31 計1,536人)
合計	7,321	

■館外事業参加者数（当館主催館外事業及び他館等主催事業への講師派遣等） 合計 237人

寄贈資料紹介

令和5（2023）年度、次の方々より貴重な資料の寄贈を受けました。厚くお礼申し上げます。

【歴史・民俗資料】

石山 正史 様（北区）……………松ヶ崎浜村絵葉書（井越葉舗発行）8点
内山 良雄 様（北区）……………「解常織物工場」スタンプ、葛塚木綿布
大澤 富夫 様（北区）……………刺し網（新井郷川下流で使用）
風間 美穂 様（北区）……………武運長久の寄せ書き旗
粕谷 美津子様（北区）……………バリカン一式
小林 伸 様（北区）……………葛塚農業協同組合貯金袋
原 飛鳥 様（北区）……………大日本国防婦人会岡方分会高森班の旗
早川 ミハル様（北区）……………ブラザー製編機2点

【美術資料】

Sueli Pinho Dias Sakuma 様（中央区）…高橋清彫刻作品1点
鶴巻 加代 様（北区）……………鶴巻加代民具スケッチ14点
西村 和子 様（西区）……………西村満油彩画作品6点

【図書】

新発田郷土研究会様（新発田市）……………新発田郷土研究会編『新発田郷土誌 第51号』
新潟郷土史研究会様（西区）……………新潟郷土史研究会編『郷土新潟 第63号』
新潟県美術連盟様……………『第50回「芸展」記念誌』
岡村 鉄琴 様（西蒲区）……………新潟大学大学院現代社会文化研究科・越佐文人研究会編『新潟文人研究 第26号』
倉地 一則 様（東区）……………新潟文化財観賞会編『観賞 第45号』
小嶋 勝雄 様（北区）……………新潟日報社編『新潟地震の記録 自然との半月の戦い』
近 寿栄美 様（中央区）……………『毎日の家事と整理』（主婦の友1967年5月号付録）
島 吾郎 様（北区）……………島吾郎『大づかみ 福島潟』
清水 一郎 様（江南区）……………財団法人安井會太郎記念会編『安井賞40年史』など4冊
鶴巻 武則 様（西区）……………鶴巻武則『「東遊記」の越後』
中山 之隆 様（田上町）……………加茂郷土調査研究会編『加茂郷土誌 第41号』
目黒由美子 様（北区）……………新潟日報社編『新潟地震の記録 自然との半月の戦い』

（寄贈のお願い） 当館では、資料の充実を図るため収集活動を行っています。ご寄贈いただける資料がありましたらお知らせください。

郷土芸能発表会

開館記念日の11月3日、当館にて、郷土芸能発表会を開催いたしました。北区内の神楽、盆踊り、太鼓など、それぞれの地元に伝わる9団体による郷土芸能が披露されました。観覧者は約320人と、大盛況でした。今年度は、多くの方にもっと堪能いただくために、当館向かいの葛塚東小学校の体育館をお借りして11月3日に開催いたします。



新規ボランティアの募集と研修

当館では、平成28年度から、常設展示を中心にガイドを行う、「市民ガイド」が活躍してまいりました。令和5年度は、ガイドだけでなく分野でも活躍していただけるよう「市民ボランティア」と名前を改め、新規募集も行いました。外部講師による研修会も開催。今年度も活躍が期待されます。



北区郷土博物館 市民ボランティア

市民ボランティアによるガイド

当館の市民ボランティアによるガイドは、事前に予約をいただいた団体の方々や、学校の校外学習として来ていただく生徒さんたちへ行くばかりでなく、ゴールデンウィークと北区こども作品展の期間中の土・日には、フリーでご来館いただいた個人の方へも行っています。地元への愛情たっぷりのガイドは、大変好評をいただいております。



新収蔵美術作品紹介



西村 満 (1935-2022) 「北の曠野」1994年、油彩、キャンバス 97.7×228.0cm

西村満が生涯のテーマである「北の風景」を見出したのは、新潟大学を卒業後に中学校の美術教諭として赴任した新潟市松浜においてでした。鈍色の空、荒涼とした海辺、寂れた小屋、画面の上下を分かつ地平線といったモチーフは、西村作品を代表するものとして多くの人々に記憶されています。

この「北の曠野」も西村らしい風景が描かれた作品です。枯野や小屋が所々明るく描かれ、雲の流れを感じさせ、時間が表現されています。横に長く描かれた地平線近くの空は明るく、緩やかに傾斜しています。1993年に学校を退職し、制作に専念するようになった作者の心の内を感じさせてくれる1点です。(大森慎子)